

塾の先生は、授業のプロフェッショナルでなければなりません。『授業のプロ』に求められるスキルの一つに、ノートのとり方指導があります。今回は、「ノートのとり方」について考えます。

生徒のノートのとり方は、「教師のレベル」を表す

プロとして優れた授業を行うには、発問の仕方、授業の流れの作り方、授業中のコミュニケーションなど、様々な工夫が必要とされます。その中でも、『最も表面に表れやすいもの』の一つが、ノートのとりの指導です。極端な言い方をすれば、生徒のノートを見れば、その教師の指導レベルがわかるのです。

ほしいことがあります。それは、生徒のノートは、保護者から見て、『唯一授業の様子の子の垣間見られるもの』であるということです。

多くの塾では、普段、保護者が自分の子どもとの授業の様子を見る機会はありません。ですから、保護者は子どもとの担当の先生について、電話や面談時の様子で先生の人柄を推し測り、ノートで授業の様子を知り、テストの結果でその先生の力量を測ることになります。

生徒のノートの向こうには保護者が存在する

もう一つ、意識しておいて

成績を上げることが一番ですが、多くの親は先生の授業の進め方やまとめ方が気になるものです。ですから、ノート指導を通して、保護

者に安心感を与えなければなりません。言い換えれば、ノート指導のうしろに、保護者を意識しなければならぬということです。



小林由香(こばやしゆか)

ノートは何冊必要か

さて、ノートは何冊必要でしょうか。教科によって、また、各塾の授業の進め方によっても異なりますが、たい

まとめ用ノート

「まとめ用」には、板書した内容を生徒に写させます。このときの具体的なポイント

①単元名、ページ、日付を入れる習慣づけを指導する

②左側のページのみ使用し、右側のページは空けておく

③色ペンの使い方をルール化する

①については、まず教師自身が、授業の際に徹底しなければなりません。

②の意図は、左側を「まとめ」とし、右側をあえて「フリースペース」にすることで

す。

このフリースペースには、自分なりの覚え方や、気づいたこと、類題、先生の授業中のギャグなど、生徒が自由に書き込みができるようにし

ます。単元が発展していくと、後から「まとめ」のページを見直すことがよくあります。その際、追加したいことや応用編などを記入するスペースがある方が使い勝手が良いのです。

③の色ペンの使い方指導も重要です。よくノートをとるのが極端に遅い生徒がいますが、そのような生徒に、たくさん色ペンを使い過ぎて

いる傾向が見られます。時間の効率性がかりでなく、脈絡も統一性もなく、ただカラフルに塗っているケースが多いのが問題です。教師側が、「最重要箇所は赤」、「暗記項目は青」などとルールを決めて、生徒に指導していく必要があります。ですから、教師は意味なく色を変えたり、多色使いをしてはいけません。

第3回

ノートのとり方①

(株)新経営サービス・人事戦略研究所コンサルタント

小林由香